

# 科目等履修願 (I)

受付番号 \_\_\_\_\_

立教大学総長殿

年 月 日

写真貼付欄

- 縦4cm、横3cm
- 出願前3ヶ月以内に撮影したもの
- 半身脱帽、正面向き  
背景のない、顔の鮮明なもの

フリガナ	2 2 F B		
氏名	生年月日	年	月 日
住所	〒 _____ 電話番号 ( ) _____		
外国籍の者	国籍		在留資格

私は 2022 年度立教大学科目等履修生募集要項(立教大学プライバシーポリシーを含む)の内容を理解し同意した上で、2022 年度立教大学科目等履修生として、下記科目の受講を希望します。

※春学期 1、春学期 2 開講科目は「春学期」に、秋学期 1、秋学期 2 開講科目は「秋学期」に○をつけ、「曜日・時限」は同じ行に両方の曜日・時限を記入してください。

※全学共通科目の履修を希望される場合は、科目コードの欄は空欄のまま構いません。

学部名 研究科名	科目コード	授業科目	単位	担当者	曜日・時限	期間(該当に○)
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期
						通年・春学期・秋学期

▲切り取り線▼

**【4月期出願者は2022年4月1日、9月期出願者は2022年9月20日時点の情報をお書きください】**

職歴は年月まで(不明な場合は年のみ)で構いません。無職等の空白期間は記入の必要はありませんが、主婦/主夫の方は「主婦/主夫」とお書きください。記入欄が足りない場合は、主な職歴のみをお書きいただくので構いません。雇用形態は問いません。

学 歴	年 月	高等学校卒業	職 歴	
	年 月	大学 学部 学科 (卒業・年次在学・退学)		
	年 月			
	年 月			



# 科目等履修願（Ⅱ）

受付番号 \_\_\_\_\_

経済学部、経済学研究科、理学部、理学研究科、法学部、  
 観光学部、観光学研究科、コミュニティ福祉学部、コミュニティ福祉学研究科、  
 経営学部、経営学研究科、現代心理学部、現代心理学研究科、  
 人工知能科学研究科

用

(複数学部・研究科に提出される方は上記該当学部・研究科を○で囲って  
 ください)

氏 名 \_\_\_\_\_

## 受講の理由・目的（横書）

（400字以内で具体的に記入してください。自筆のこと。）

																					100
																					200
																					300
																					400

▲ 切り取り線 ▼

# 学籍関連事項整理票

(科目等履修生用)

写真貼付欄

- 縦4cm、横3cm
- 出願前3ヶ月以内に撮影したもの
- 半身脱帽、正面向き背景のない、顔の鮮明なもの

※大学記入欄

科目等履修生番号					
2	2	F	B		

[本人]

氏名	姓(Family Name)		名(First Name)※ミドルネーム含む		性別	1	2
	英字					男	女
	カナ						
	漢字						

郵便番号	—	都道府県	コード	
住所				
TEL	ヨ	内線		
携帯				
メールアドレス	@			
常に確認でき、最もよく使用するアドレスをご記入ください				

出身校		大学 大学院 短大・高校		学科 専攻
卒業・退学 年月(西暦)		年	月	

※在学中の場合は入学年月日を書いてください。

生年月日(西暦)		年		月		日生	入学 年	22
----------	--	---	--	---	--	----	---------	----

国籍	日本	外国籍の場合		
		国名	コード	

※日本国籍の場合は「日本」に○をつけてください。

[連絡先]

氏名	
----	--

郵便番号	—	都道府県	コード	
住所				
TEL	ヨ	内線		

▲切り取り線▼

# 日本語能力申告書

(文学部・文学研究科の科目に出願する外国籍の者のみ提出)

年 月 日

フリガナ

氏 名 \_\_\_\_\_ 国 籍 \_\_\_\_\_

- 1 日本での滞在年数（出願時までの通算年数）合計 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ カ月  
 2 日本語学習歴（必要なものだけでよい）

	学 習 期 間	学 習 機 関 ・ 所 在 地 ・ 教 授 者
I	年 月 ↓ 年 月	
II	年 月 ↓ 年 月	
III	年 月 ↓ 年 月	

▲切り取り線▼

### 3 日本語能力の自己評価（該当個所に○）

	A	B	C	D
読む力				
書く力				
話す力				
聴く力				

〈評価基準〉

- A：日本人とほとんど変わらない能力を有する。  
 B：1ヵ月～3ヵ月の指導で、十分な能力を有する可能性がある。  
 C：6ヵ月～1年間の指導で、ある程度の能力を有する可能性がある。  
 D：初歩的な段階であり、今後長期にわたる指導が必要である。

注) 日本語能力を証明する他の書類があれば、この申告書に添付すること。